

# ひめまつ

47



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

# ひめまつ 目次

(第四十七号)

表紙絵……増渕かおり

題字……石川木魚

写真……写真部・編集部

## 巻頭言

国際化の進む本校教育(はじめてフランス研修旅行実施)

校長 須賀 淳

淳…1

◇◇自治活動である生徒会を(生徒会会長に就任して)

松島 愛美…4

◇◇全校生徒の協力のもとに(任務を終えて思うこと)

阿久津純子…5

## 〈声〉 妥協すること、しないこと

「使い分けが大切」

三年 大嶋 貴子

6

「大人と認められて」

三年 水嶋 真人

「妥協することを学ぶ」

三年 後沢 利理

「お互いの妥協が大切」

三年 坂中美由起

「自我になるのも個性になるのも…」

三年 野沢 昌代

三年 高野 淳悟

「自分に忠実に生きる」

二年 塚本 俊治

「自分は自分、人は人」

二年 井上みさと

「妥協する潔さ」

二年 大越 賢二

「芯のある人間に」

二年 手塚 友子

「乏しい記憶の中から」

二年 漆原小百合

「生活の一情景」

二年 西山 依恵

「絶体妥協できぬもの」

一年 加藤 新

「集団生活の中で」

一年 中島 美季

「自分の意見を持ち他人を受け入れ」

一年 渡辺 ユミ

「切り捨て上手」

一年 小林 一美

「譲り合いの言葉」

一年 内田美恵子

「自分の意見持ち妥協」

一年 小林 真弓

## \*心に強く響くもの(校内読書感想文入賞作品)

17

「沈黙」

三年 石川 富美

「人間失格」

二年 嶋田佳代子

「夜と霧」

三年 田中 久稔

「母は枯葉剤を浴びた」

一年 高橋佳容子

「路傍の石」

三年 石下 有美

「痴人の愛」

一年 大谷あす香

「二十歳の原点」

二年 近藤 順子

「日本は優しかったか」

一年 福嶋真由美

「赤毛のアン」

二年 山村 恭子

◇作品集

〔三年〕湯澤志乃舞

他

31

詩

〔二年〕青柳 幸恵

他

短歌

〔二年〕大関 明子

他

俳句

☆あとらんだむ

〔二年〕山越 千代・池田 香

〔二年〕小口悠次郎

38

月関西・四国・大洗・日光の旅

41

〔三年〕米山真由美・野澤真由美・金子依里香・辻浦康子

〔二年〕伊藤 史江

〔二年〕荻野 春香・鈴木 由佳

招待席

佐藤みどり・川出 厚・山形 恵子・和久 誠

48

◆わがホームルームの紹介

56

◆委員会・クラブ活動この一年

116

★学園告知板

128

附属中コーナー

138

この一年間のおもな活躍・読書感想文入賞作品・PTA役員 その他

◎平成四年度生徒会報告

151

☒就職状況

158

☒職員住所録

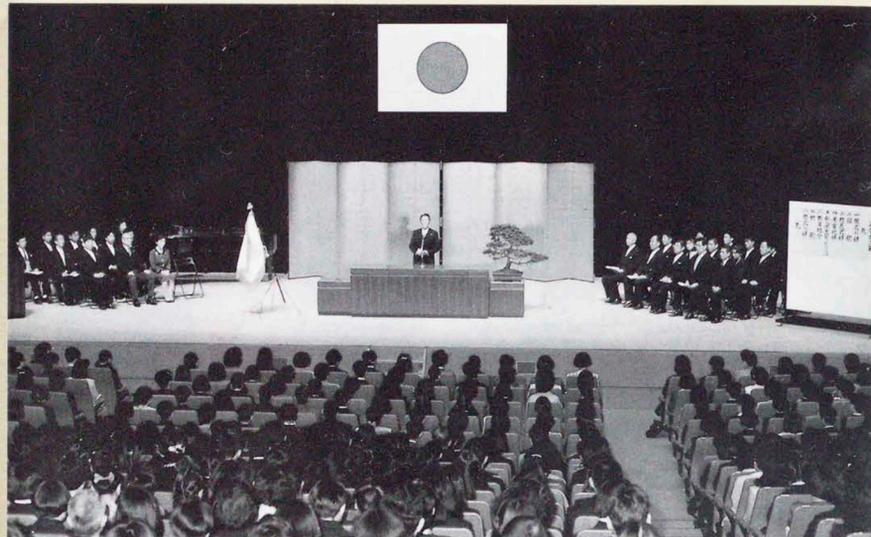
162

☒編集後記

167

☒奥付

168



▲栃木県総合文化センターのメインホールで行われた入学式(4月9日)

## 学園の四季



▲対面式で歓迎のことばをのべる生徒会長(右)とあいさつをのべる  
新入生代表(左)(4月10日)



▲旧体育館での最後の卒業式(3月9日)

▲左下・一日入学での制服採寸(3月25日)  
▼28年ぶり、夏の制服変わる(6月1日)



宇都宮短期大学附属中学・高等学校

## 校歌

作詩 菅谷徳次郎  
作曲 野原幸夫

Musical score for the school song, featuring a treble clef, a common time signature (C), and a key signature of one flat (B-flat). The lyrics are written in Japanese below the notes.

ふたらのたかねをはるかにおおぎ  
にわもにしげれるひめまつこま  
まかなびのみちすはまきよあすよと  
かたみにちかいていそしみはげむ  
おまなびのこわこそけにうとけれ  
あわれれとめうとたこのまなびや

校歌

一 二荒の高嶺を 遙かに仰ぎ

学びの道筋を まさしくあれと

かたみに誓いて いそしみ励む

教えの庭こそ げに尊けれ

あわれ尊 この学びや

二 庭面に茂れる 姫松小松

変らぬ操は 千代万代と

かたみに祝いて いそしみ励む

学びの庭こそ げに芽出度けれ

あわれ芽出度 この学びや



▲“花嫁の父”の先生にエスコートされて被服制作発表会(2月29日)



SWEATER

▼下1・防火避難訓練の1コマ(11月24日)

▼下2・フランスから招いた一流シェフのジャック・ギーさんのフランス料理講習会(11月21日)



いい1日でした



▲真剣なまなざしでお茶のお点前(9月10日)



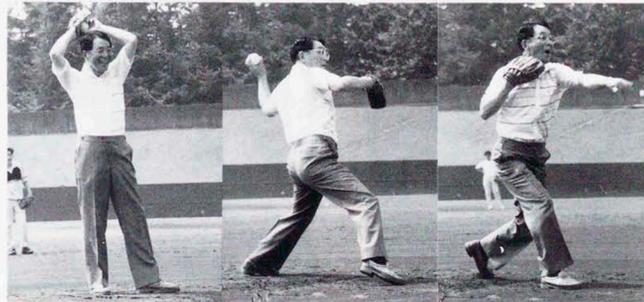
▲激闘のバレーボール(7月10日)

## ENJOY SCHOOL LIFE



▲日光スケート教室での校長先生御夫妻(1月12日)

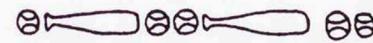
▼始球式での校長先生3態(7月9日)



大きくモーション

ゆくぞ、ストレート

バッチリきまりました



▼校内球技水泳大会の表彰(7月20日)



▲学校祭の“宣伝ウーマン”(11月8日)



▲華やかに卒業演奏会  
=短大の須賀友正記念ホールで=(3月26日)

巻頭言

国際化の進む本校教育

—はじめてフランス研修旅行実施—

校長 須賀 淳<sup>あつし</sup>



めまぐるしい国際情勢の変化によって、日本の政治も大きくふり廻されている感じがしますが、私たちは平和な学園生活を送ることができ、そのありがたさをしみじみ感じています。生徒の皆さんも、毎日の学校の勉強は大へんでしょうが、平穩に勉強できる幸せに感謝して、がんばっていただきたいと思ひます。

日本が国際化の時代といわれるようになって久しい月日がたちますが、本校の生徒の皆さんのなかにも、外国の高校に留学される人、夏休みにホーム・ステイに出かける人と、外国での勉強を体験する人が多数に上っています。また、本校で日本の高校生活を体験したいという外国の高校生もふえてきて、ホストファミリーを引き受けた本校の生徒と一緒に登校し、クラスの皆さんとけんこんで勉強している風景もみられます。

この日……



▲卒業生にお手伝いを願って着装講座 (11月25日)



▲裏磐梯最後の夜のキャンプファイヤー (7月28日)



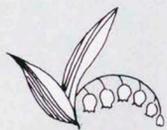
▶7,800人の受験生があつまった推薦入試 (12月14日)

▼修学旅行でお猿さんと交流? のひととき (5月15日)



生徒会役員

副会長 本間ひとみ	副会長 久保野祥子	会長 松島愛美	
庶務 奈良部雅美	庶務 田島 芽	会計 佐々木綾	会計 大塚有紀子
議長団 青木勝彦	議長団 佐藤睦美	議長団 仲光朝陽	議長団 岩下深雪





現地を訪れた校長先生、後方はシャンソンで有名なアビニヨンの橋(正式名はサン・ベネゼ橋)

本校では毎年、普通科の生徒を中心として、夏にはニュージーランドのハウィック・カレッジに語学研修旅行を行っていますし、また宇都大の音楽科の学生を中心として、春にヨーロッパのウィーンへ音楽研修旅行を行っています。

このたびは、かねて計画が進められていた調理科の生徒を中心とするフランス料理研修旅行がいよいよ実施されることになりました。このフランス研修旅行については、英語圏でないため、いろいろむずかしい点もありましたが、フランスで活躍の経験が長く、現在宇都宮の栃木県総合文化センター内で「オーベルジュ・テ・マロニエ」(高級フランス料理レストラン)を経営しておられるオーナー・シェフの音羽和紀氏(御母堂が本校卒業生)の御尽力により、今年の二月から三月にかけて調理科の生徒たちがフランスへ

でかけることになりました。

昨春秋に私は、音羽氏とともにフランスの現地を訪れ、その受け入れ体制などの準備をしてきました。研修地であるフランス南部プロバンス地方の古い歴史のまちアヴィニオン市は、栃木県と有好県の関係をもつヴォークリューズ県の都です。これまで両県の交流はあまりなかったこともあり、栃木県民はもちろんのこと、ヴォークリューズ県の県民の皆さんも本校の研修旅行を大へんよろこんでくれています。両県のおはからいで、この研修旅行の折衝もスムーズに進み、有意義な内容の濃い研修となりました。

この研修の内容は、アヴィニオン市の「ホテル調理学校」(市商工会議所経営)でのフランス料理研修と、三ツ星級のレストランでの実地研修と食事、ワイン大学や香草、養鶏の農場、ジャムやキノコの加工場の見学など、フランス料理専門の研修に加えて、同市にある旧ローマ法王庁など中世の文化遺跡の見学など盛りだくさんの内容となっています。

通常の修学旅行では体験できない、このようなフランスでの研修を通じて、参加生徒の皆さんには調理技術を習得することはもちろん、調理材料についての見聞をひろめるとともに、歴史的、文化的見識を深め、さらには国際的な理解と視野をひろげて、国際人へと成長し、国際親善に大きく寄与していただきたいと思っています。

本校も創立以来九十有余年、間もなく創立百周年を迎えることとなります。さきに行われました本校の入学試験では、一万二千名という本校はじまって以来の多数の受験生を迎えることができました。そして四月には、そのなかから選ばれた優秀な一年生が入学してこられます。生徒の皆さんは、本校の長い歴史と伝統のうえに、新しい国際化の時代にふさわしい研鑽を積まれて、これからの国際社会に飛翔してほしいと念願しています。



ホテル学校の生徒たちは、自分たちで作った料理を食事にくる一般のお客様に自分たちでサービスする。

# 学園告知板

## 校長先生に文部大臣賞

私学振興に大きな貢献

私学の振興のため長い間尽力貢献されてきました須賀 淳校長先生が十月三十日に文部大臣から表彰されました。おめでとうございます。

須賀校長先生は文部省に十七年お勤めになり、文部大臣秘書官、文化財課長、教科書課長、初等教育課長などを歴任されましたが、昭和四十三年に本校に戻られました。その後、須賀学園の理事長・校長として本学園の運営にあたりながら、日本私立中学高等学校連合会理事、栃木県私学審議会会長などを勤められ、私学の振興に大きな貢献をされております。

## 租税教育推進で感謝状

十一月十一日宇都宮税務署で開かれた平成四年度租税教育推進校の表彰式

で、今年度は本校が選ばれ表彰を受けました。  
これは長年にわたり、税に関する作文や標語を通じて納税思想の啓蒙高揚に尽力したことが評価されたものです。

## 稲葉さん(二一九)

作文日本一に

障害者と健常者(障害のない人)とが互いに助け合って共に生きる社会を築こうと総理府が募集した「心の輪を広げる体験作文」に生活教養科三年九組の稲葉智美さんが見事日本一、内閣総理大臣賞に選ばれました。稲葉さんの作文内容は生まれながらに障害を持つ弟との生活の中から、広く障害者の人々の目となり耳となろうと決意するまでの体験をつづったものです。  
その表彰は十二月九日、東京・有楽町の朝日ホールで「国連・障害者の十



総理大臣賞を受けた稲葉さん

## 福田(元生徒会長)さんに

文部大臣賞

平成四年度社団法人日本和裁士会主催の「第三十七回全国和裁技術コンクール」及び第三回きものコンクールで元生徒会長の福田有美さん(現文化女子大一年)の「手描き更紗染めゆかた」が見事最高の文部大臣賞に選ばれました。

福田さんの作品は、図案から自分でデザインし、下絵を墨で書いたのち、彩色したもの。本校在学中に出品し、七月に入賞が決まりました。

## 大野さん最優秀賞に

産業教育体験発表

今回で三度目を迎えた県産業教育振興会主催の産業関係高校生徒の体験発表会で、三年十一組大野麻美子さんが見事最優秀賞に選ばれました。  
出場者はテープによる第一次子選を通過してきた十名。

大野さんは「伝統文化と私」のテーマで、生活教養科で学んだことを中心に、手描き更紗など日本のすばらしい伝統文化である衣服を現代化し、その良さを広めたいというものでした。その後、全国大会にも出場し佳作に入賞しました。

## 南里先生から油彩画

毎年、卒業をひかえた三年生に特別講話をなさってくださいている県教育委員会の委員長であります医師の南里栄子先生から、このほど油彩画「カーニユのシャトウ(南仏)」が本校に贈られました。生徒の皆さんのためにというのですが、さっそく、正面玄関のつきあたりに飾られました。  
この作品は二紀会会員森 英氏のものです。

## 礼状

「小さな親切」が困った人には大きな助けになるものですが、さきごろ宇都宮市下砥上町の七十四歳になるお年

寄りから、次のようなお礼のお手紙が校長先生あてに参りました。  
小さな親切が大きな助けとなった実例ですので紹介いたしますよう。

謹啓

大寒の候、年度末も間近益々御多忙の毎日と拝察致します。

さて、私儀去る一月二十七日午後四時前後、お恥ずかしき事ながらまさに年寄の冷水、市内滝谷町ロッテリア付近の路上にて自転車より転倒顔面に数ヶ所の怪我を致しました。怪我の割りに多量の出血を見て困惑して居りますと、かたわらを通りかかった貴校の一年生、松崎繁子様と野沢ますみ様の御二人が早速駆け寄られて心のこもった応急の処置を下さって医師の処置が終るまで付き添って下さいました。お陰で大事に至らずに済むことが出来ました。

ひとえにお二人の手厚い心くぼりの賜と衷心より感謝いたしております。  
お二人の御両親はもとより諸先生方の御指導がしのばれて誠に有難く、筆を執った次第です。お二人には呉々も

御鶴声下さるようお願い申し上げます。  
先ずは乱筆乱文ながら御礼まで

敬具

平成四年一月三十一日

須賀 淳 様

岡 亀重(七十四歳)

野沢さん(英進一年十三組)と松崎さん(生教一年十四組)は「怪我をして困っている所へ来あわせた者としては当然のことはしたまでです」とはにかんできました。しかし現代は当然のことがなかなか行われない世の中です。野沢さん、松崎さんご苦労さまでした。

荒川中学校

丈 行先生から

一年九組 大河原美和さんへ

一枚一枚に美和さんの真心を、実に美しく、そして、愛らしく込めていただきました。「カトレアのコサージュ」を誠にありがとうございました。家族全員で栄子、悦代、千津子、裕子、佳

代子、誰のものになるか大変です。私と息子(章生)はあきらめる他はないようです。

残された二年半、美和さんが自分の理想を追い続け、さらに美しく、心のこもった作品を作られることを願っております。

拝

市塙中

杉田知之先生より

三年九組 菅又 香さんへ

前略  
先日の学校説明会で、あなたが作ってくれたアップルバターケーキをいただきました。家族一同、とても嬉しく、おいしくいただきました。これだけの技術があれば、社会に出て、また家庭に入っても大いに活躍できることと思います。これからの学習にいつそう励んで成果を取ってください。感謝をこめて御礼までに一筆したためました。草々

南摩中

村岡美智子先生より

調理科一同へ

実りの秋を迎えました。皆様にはますますお元気のことと思います。さてこの度は御校の入学説明会に際し、心のこもった接待をしていただきありがとうございます。また帰り際にはおいしいバターアップルケーキのおみやげをご用意ください。感激しました。学校にもどって職員一同で御校の様子を話題にしながら賞味させていただきました。今後とも皆様の一層のご活躍をお祈り致します。担当の先生にもよろしくお伝えくださいませ。

小山市稲葉郷二七一の四

松本ハツ様より

前略

本日孫弦子より皆々様御厚志の品物二品頂き誠に有難う御座居ました。

皆々様の御幸福をお祈り申し上げます。

葉月夜に目ざめし吾れは庭先の

松ヶ枝の影を墨絵と見たり

さらさらと葉音の芒屑にして

病を越えし ほほ笑の顔

大田原市加治屋九四

石沢テル様より

すずやかな秋風がとても心地よく感じられる今日この頃でございます。校長先生には毎日お忙しくおす、このことと存じます。

突然のお手紙失礼いたします。

この度は敬老の日にご心もったお祝いの品を誠にありがとうございました。

毎年いただきながらお礼のお手紙を差し上げず心苦しく思っております。

孫も最終学年となり、毎日忙しいようです。それでも私の事を気にかけて世話をやいてくれます。

これも校長先生のご指導のたまものと敬服いたして居ります。私も八十六歳になりますが、毎日一―二時間の畑仕事と読書、テレビと元気に過ごしております。孫の話によりますと体育館を新築中とのことですね。

私のお礼の気持ちといたしまして、すこしばかり寄付をさせていただきます。どうぞお受け取り下さいませ。

御校のますますの御発展をお祈り申し上げます。お礼のお手紙とさせていただきます。

平成四年 九月十六日

石沢テル

(注) 三年二組井上直美さんの祖母

南河内町葉師寺九六七

高山隆夫・ケサコ御夫妻より

皆さま今日は暑かった毎日、しのぎよい季節となり勉強に励まれて居られますこととお喜び申し上げます。此の度は私ども老齢者のために心暖かい贈り物をくださいまして誠にあり

がとうございました。

戦前、戦中と生き永らえ、平和で豊かな世の中に生を受けて居ることを此の上なく有難くよろこんで居ります。日本も世界のために尽せるようになりました。皆様もこれからの日本を背負って生きなければならぬと思っております。元気で励まれ基礎を身につけられますようお願い申し上げます。私どもも老いたとは申せ、自分達で出来ることを社会のために奉仕して生きたいと思っております。

敬具

元本校講師 河住 玄先生より

拝啓 敬老の御祝いの品(お箸と箸箱)有難く頂戴仕り候。謹んで御礼申し上げます。小生八十四、耳聾、眼瞶ながら手脚は健全で消光 罷、在り候。顧みて御校に勤務十六年、古典の勉強を致し、老後を恵まれました事、偏へに御校の御恩と平素感謝申し居り候。益々御発展の程 奉至禱居候。

平成四年 敬老の翌日

(注) 一年十六組河住龍飛昌君の祖父  
PTAの新役員決まる

今年度PTA総会は四月二十三日開かれ、次の役員が決まりました。ご苦労さまです。

- |      |       |
|------|-------|
| 会長   | 松岡 祐祥 |
| 副会長  | 篠崎キミエ |
| 会計   | 田村 昭夫 |
| 会計監査 | 高山 俊三 |
| 顧問   | 塚本美貴吉 |
| 相談役  | 六川 彦次 |
| 幹事   | 乙川源一郎 |
|      | 大久保健三 |
|      | 柳井 博義 |
|      | 庄田 忠司 |
|      | 須賀 淳  |
|      | 渡辺 衛  |
|      | 岡田 喜三 |
|      | 太田 茂雄 |
|      | 金田 敏彰 |
|      | 大崎 雄昭 |
|      | 佐藤みどり |

常任委員

和氣 道夫  
外八十六名

秘蔵写真館大にぎわい

学校祭に編集委員会の新企画

平成四年度の学校祭に、編集委員会では新しい企画として「秘蔵写真館」—思い出のこの一枚—という催しを行いました。これは先生方に、忘れられない思い出の最も貴重な写真を貸していただき展示したものです。

初めは係りでも、先生方からの程度の協力を得られるか心配でした。ところが各学級の委員のお骨折りで、予想していた三倍も余り、学校祭期間中は、開場と同時に集った生徒や卒業生、保護者などが最終時刻まで、ひきもきらずの盛況で学校祭の「目玉商品」になりました。

内容は校長先生が祖母である本学創立者の栄子先生にだっこされた、まだお誕生前のお写真をはじめ、先生方の幼年時代の記念写真や旅行、チャレンジ、スポーツなど数々の写真に、生徒

の皆さんも、日ごろの先生とは全く異なるイメージに、キヤーカー、ワイワイが終日つづいておりました。

総数五十六点について、最も印象に残った三点を選び投票していただいたところ、総計百二十二点を数えました。ベスト・10は次のとおりでした。

また投票者の中から抽選で次のように記念品が贈られました。

「ベスト・10」

- ①芸術家(根本英孝先生)
- ②山の人(福田政行先生)
- ③笑顔の似合う男になりた(磯寿人先生)
- ④早く大人になりた(信 享先生)
- ⑤小さなモデル(五十嵐紀子先生)
- ⑥変身(佐藤義美先生)
- ⑦何かを探して(斎藤浩二先生)
- ⑧ある冬の微笑(柳清和先生)
- ⑨自転車に乗る少年(小太刀忠治先生)
- ⑩伊豆の海(田村粹実先生)

「抽せん結果」

- 一等 ヨットパーカー 阿部涙未奈(二の二三)
- 二等 カメラマンジャンパー 高橋真紀子(二の一)
- 三等 Tシャツ 安藤純子(西那須野町)



大にぎわいの秘蔵写真館

四等 テレホンカード 井上智子  
(一の二三) 五等 エプロン 五月  
伸介(二の四) 六等 三色ボールペ  
ン 佐貫裕直(宇都宮市) 佳作 吉  
野泰弘外一九名

教生の先生の感想文

去る六月と九月とにわかれて、今年

度も多数の教生が本校で教育実習を行ないましたが、その感想文二つをご紹介します。

教育実習を終えて

作新学院大学 酒井 優行

二週間の教育実習についてやり遂げた。私には、一年間通学したようにすら思える。特に最初の三日間は疲れもたまり、二週間が途方もない時間にも思えた。

しかし、後半の一週間は自分で授業をもつとさくさく、あつという間違ったような気もする。実際、教育実習は貴重な体験であった。今までは立場や視点を全く逆にした学校生活。大勢の人に注目され物を教えること(特に私は女生徒ばかりであった)。さらに、年齢も価値観も違う、大学キャンパスとは別世界の生徒と生活を共にすることは懐しくもあり、未知の驚きに満ちたものでもあった。

もつとも驚いたのは情報商業科の生徒達の純粋さとひたむきさである。生

徒達の簿記や珠算の真面目な授業態度と情報処理やワープロの授業にむける意欲や興味にはある種のひたむきさを感じる。生徒達には強い向上心を感じる。事実、生徒達は私の本校における三年間よりも各種の資格という実績と高い能力を身に付けている。確かに学力自体は普通科に及ばないかも知れない、生徒自身が自分の学力を見限っているふしが見られる。しかし、もし生徒達が経営学部の大学に進学したならば自分自身に対する価値観が変わるだろう。なぜならば大学で要求される知識は生徒達のもつ専門知識だからである。生徒達は伸びる資質を十分に備えている。大学に進学すれば自分自身に自信と誇りを持つことだろう。だからこそ生徒の進学したいという気持ちと可能性を大切にしたいと感じた。

次に驚いたのは生徒達の大学に対する関心である。高校で一日を終える生徒達にとって大学の解放的な雰囲気は驚異にうつららしい。大学に外国人や関西、九州、北海道出身の学生がいると知っただけで驚きの声があがる。高校の外を取りまく環境全てが新鮮なよ

うである。とかく、おしゃればかりに興味がいってしまいがちな生徒達であるが、それは単に自分自身ではおしゃだけの情報しか入手する方法を知らないだけで本当は、興味をひけばもっと重要なものに目を向けるのではないかと思う。現に私は大学の生活や勉強やサークル活動についていろいろの質問を受けた。進学すればきつと視野が広くなるに違いない。頑張つてほしい。

私自身の実習は、一週間、諸先生方の授業を勉強させていただいたことと、キメ細かな指導と厳しいアドバイスのおかげで無事終えることができた。感謝の気持ちでいっぱいである。特に研究授業では反省点が多くあるものの、自分自身に蓄積してきた全てを出されたと思う。実習の始めは不安もあったが、二週間たった今では自分の自信につながった。一年生から三年生までの生徒といよいよなじんできた頃に実習が終わり残念である。研究授業でのクラス全員の「ありがとうございます。あのあいつの言葉は今後も励みになることと思う。」

(本校卒業生)

### 教育実習を終えるにあたって

東海大学 峯岸 宣遠

本日をもちまして無事、教育実習を終えることができました。これも偏に校長先生を始め、諸先生方のあたたかい御指導のおかげです。本当にありがとうございます。

教育実習を始めるに当たり、教育実習とは言え、生徒に指導するという責任は先生方と同じであると考え、本校の教育方針である「個性、能力、特性を伸ばす教育。一人一人の生徒を親切にキメこまかく」を思い出し、肝に命じてこの実習に挑みました。また自分は化学を教えるために、高校時代の教科書ノートなどをもう一度読み直し、その当時どの部分が理解しにくかったかなど考え、生徒の立場だけでも少しは把握しておこうと勉強してきました。こうして実習が始まりました。

最初の二週間は、授業参観が中心になりました。ここで第一に注意したことは、授業の流れをどのように作るか、生徒の興味を如何にしてこちらに向か

せ理解させるかでした。

化学というものは、人間が物質とかかり合うなかで得た知識と技術と理論の集大成なのだということを少しでも伝えることが化学の教師としての役割だと思えます。このことを教科書を通じて生徒たちに授業の中で分からせていくことは大変ではありませんが、また非常におもしろいものだと感じました。そして目的を達するために先生は授業中、全身全霊打ちこんでおられました。その熱意に生徒も答え、一生懸命がんばっている姿を見るとこれが教師にとっての魅力だと感じました。

しかし、実際に自分で指導案を立て、授業を行ってみると、まったく思い通りには、いきませんでした。化学のおもしろさを伝える以前に、授業の進め方、題目と題目の間のつなげ方、これらの組み立て方がばらばらで、授業の流れができませんでした。これを研究授業までには何とか流れが出るようにと常に悪いと思う点を改善し、教材研究をやり、また、萩原先生を始め理科担当の諸先生方の御指導を受けることにより、何とか研究授業を乗り越える

ことができました。

実際に教育実習を終了して、先生というものは常に自分に厳しく向学心が必要とされることが実感できました。そして、今まで学生の立場で行動していましたが、先生という立場でこの二週間、自分なりに一生懸命がんばって過ごしてみても、ものすごい発見と成長があったと思います。また自分の違った一面を見ることができ、これからの人生において少しは幅を持たせることができると思います。

集中をすることにより、ある程度の結果が出た時の満足感というものが、こんなにすばらしいものとは思っていませんでした。

このように実習を振り返って見て、生徒とのふれあい、先生方との交流をし、自分なりにがんばれたということ、非常に貴重で、有意義な体験ができうれしく思います。これからもがんばります。ありがとうございます。

(本校卒業生)

### インターアクトクラブ

#### 年次大会の報告から

会長 齋藤香代子

私は、宇都宮短期大学附属高等学校インターアクトクラブ会長の齋藤香代子と申します。

本日は、宇都宮西ロータリークラブの例会に出席させていただきました。ありがとうございます。これから、去る八月十八日・十九日の二日間に行われました、国際ロータリー第二五五〇・第二八二〇地区第二十七回インターアクトクラブ年次大会について、御報告をさせていただきます。

今年のインターアクトクラブ年次大会は、私達の学校がホスト校となり、日光東照宮研修会館で開催いたしました。本校のインターアクトクラブは、三年生十七名、二年生三名、一年生一名の計二十一名が参加いたしました。宇都宮西ロータリークラブからは、会長の五味淵一先生、インターアクト委員長松井昭先生をはじめ、その他大勢のロータリアンの皆様方が、お忙しい中

を御出席下さいまして、御指導下さいました。本校からは、校長先生をはじめ、インターアクトクラブ顧問の太田先生、大崎先生、五十嵐先生、川出先生が協力して下さいました。

今回の年次大会は、「より高めよう国際理解」というテーマのもとで、午後一時半から、開会式がはじまりました。多くの来賓の皆様方からごあいさつをいただき、大会も盛り上がりつつありました。そして、韓国研修旅行報告では、聖徳大学附属聖徳高等学校、水城高等学校、茨城キリスト教学園高等学校、水戸女子高等学校、足利学園高等学校、宇都宮学園高等学校、宇都宮短期大学附属高等学校の各学校代表から報告を聞きました。私も、今年の韓国研修旅行に参加させていただきましたが、その時の思い出が甦り、板門店を見学したことや、韓国の生徒と英語で会話したこと、福祉施設を訪問したことなどが、次々と思い出されました。

充実した内容のうちに開会式が終わり、十分間の休憩の後、竹工芸家で栃木県文化功労者の八木沢啓造先生による特別記念講話が入りました。演題は

「竹とともに国際協力」で、八木沢先生が、戦後間もない昭和三十年代から中国・東南アジア各国に行かれ竹工芸の指導にあたり、奉仕活動をなさったことなど、感銘深く聞かせていただきました。今回の大会テーマ「より高めよう国際理解」に即した内容で、私達インターアクターの今後の活動の道しるべとなるものと感じました。

講話が終わわり、夕べの集い。夕食の後、午後七時半から、韓国第三六五〇地区インターアクトクラブの生徒の皆さんとの親善交歓会がはじまりました。

私は、第二五五〇・第二八二〇地区代表として、韓国研修旅行の時と同じように、ハンガル語で歓迎のあいさつをさせていただきました。韓国の生徒の中には、私が韓国でもハンガル語であいさつしたことを覚えていた人もいたようで、私のあいさつが終わるとさかんな拍手を送って下さいました。その時に、一生懸命練習してがんばった甲斐があったと、とても嬉しく感じました。

交歓会では、最初に本校が電子オル

ガンの演奏、合唱を行い、その後韓国の方々の民俗芸能やモダンバレエを見せていただきました。最後に、宇都宮西ロータリークラブの岡川様が玄人はだしの手品を見せて下さり、最高の盛り上がりで交歓会が終わりました。その後、宇都宮学園高等学校のインターアクターが用意して下さいった花火を、芝生の上で行い、韓国の皆様をお送りしました。短い時間ではありましたが、とても楽しく充実した内容であったと思います。お見送りした時は、お別れが悲しく感じられました。

大会三日目の十九日は、午前七時から、朝のつどい。朝食の後、大会のしめくりとして、校長先生のあいさつをいただき、午前八時半に見学に出発しました。川治ダム、日光霧降高原、大笹牧場を廻り、再び日光東照宮研修会館へ戻りました。各学校にお弁当を渡し、そこで解散となり、各学校ごとに別れを惜しみながら帰校いたしました。

私は、今年度、インターアクトクラブの会長に就任し、韓国研修旅行に参加したり、年次大会のホストをつとめ

たり、大変貴重な体験をすることができました。これも、宇都宮西ロータリークラブの皆様や先生方の温かな御指導、御援助のおかげです。心から厚く感謝申し上げます。私の御報告とさせていただきます。どうもありがとうございました。

### 新体育館工事順調に進む

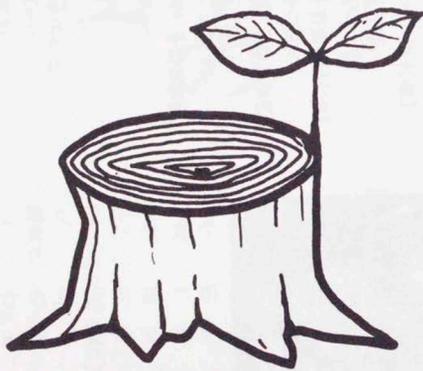
新体育館は昨年五月十六日の地鎮祭以来、今年秋の完成めざして工事が順調に進められています。

新体育館は二層で、一階は体育館スペースに、そのほか玄関ホール、来賓応接室、シャワー室、トイレなど、また二階はバスケットボールのコート(二面)、音響調整室、体育研究室などが設備されています。この一階と現在の第二体育館とは同フラットとして共通利用できます。

現在工事はコンクリート打ちなどの躯体工事が行われています。九月の第二学期始めから使用できる予定です。

なお、学校から徒歩数分の幸町、宇都宮市西消防署東隣りにある第三グラ

ンド(三千百平方メートル)も、テニスコート(二面)バスケットボール兼バレーボールコート(二面・特殊樹脂製ニュースピコンコート仕上げ)とスマートで機能的なクラブハウス(平家建て床面積九十九平方メートル)が完成し、すでに昨年から使用しています。



## 校史と校章

本学園は、平成2年11月に創立90周年を迎え、さらに100周年に向けて発展充実の歩みを進めています。創立者、須賀栄子先生は、女子に最も適切な技芸を教授し、その時代と境遇とに順応すべき実際の婦人の養成を教育の主旨とし、共和裁縫教習所から、共和裁縫女学校、宇都宮須賀女学校、宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、発展させてゆかれました。その後を須賀友正先生が受け継がれ、学制改革により、宇都宮須賀高等学校となり、さらに、宇都宮短期大学を設置し、高校も宇都宮短期大学附属高校と改名されました。友正先生の後を受け継がれたのが、現校長先生でいらっしゃる須賀 淳先生です。先生は宇都宮短期大学附属中学校を設置し、ますます学校を発展させて、現在に至っております。

我が校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉の意味は、生徒一人一人が、それぞれに、本校生徒としての価値を知り、その価値を自覚することこそ、人間の大きな喜びであり、幸福への素材であるとし、学校はそのあり方を勉強する場であるというのが、須賀栄子先生のお考えです。私たちは現在、この言葉を胸に、本校生徒としての価値を認識し、生活しています。

本校には、現在に至るまで、いくつかの校章がありましたが、現在使われている校章の由来は、創立者須賀家の祖先が武士の旗印として使っていた、「ス」の文字を3つ組み合わせたものです。

「ひめまつ」第四十七号(非売品)  
平成五年三月十日印刷発行  
宇都宮市睦町一番三五号  
宇都宮短期大学附属高等学校  
編集人 顧問 松島愛実 誠  
発行人 生徒会長 松島愛実 誠  
印刷所 宇都宮市鶴田町一三五九の一  
ヤマゼン印刷株式会社  
0286(48)1111  
印刷人 山本征一郎

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会  
〒320  
TEL 0286 044161 13番